

紡愛の会

(ほうあいのかい)
(Weaving Love Team)

愛を身に着けなさい。愛はすべてを完成させるきずなです。

(コロサイの信徒への手紙 3章 14節)

高校入学後の二年間は、新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けたといっても過言ではありません。修学旅行や運動会等多くの活動が縮小、あるいは中止に追い込まれました。

振り返ってみると、コロナ禍で、様々な活動が制限されている中、福者マリ・テレーズ・ド・スピランの「過去や未来ではなく、今の瞬間に全力を尽くすことです」という言葉に象徴される教育目標「而今」を掲げ、今という時間を大切にしながらの日々であった高校一年時。

閉塞感漂う中で、自分で考え、自分で行動するという「自律」を教育目標に掲げた高校二年時。縮小された形での運動会、半日開催でしたが実行委員として新種目を考え実行してくれました。そして、先輩から受け継いだ生徒会活動は、そのような中でも輝きが放てる学校生活にしたいという思いを込めたスローガン「星河一天」を掲げ、思うような活動時間が確保されない中でも、この状況で今何をどうすべきか真剣に考え、知恵を出し合いながら活動してくれました。リモートでの文化祭・生徒朝礼・昼休憩の放送等の企画からも、皆さんに楽しい学校生活を提供し輝いてほしいという思いが随所に溢れていましたね。本年度になり、やっと他者との関わりを持ちながら活動するという本来の姿が取り戻されました。それゆえに、苦しんでいる人がいたら、その人の立場に自分の身を置いて、痛みや苦しみ・気持ちを理解し分かち合う能力である「共感」を教育目標にして今日を迎えています。とりわけ、記念祭バザーは、六年生の皆さんの力を結集し、「愛と奉仕の心」で接し、共感力を発揮してくれていた姿がとても印象的でした。お蔭で、近年最多の2671名の来客があり、成功裡に終わることが出来ました。

人と人との繋がりが、濃密に持てるようになった今こそ、人間関係を織りながら、キリスト教が大切にしている「愛」を作り上げていく(紡ぐ)ことが重要であると捉え、卒業名を「紡愛の会 (Weaving Love Team)」としました。「紡ぐ」は、「繊維に撚りをかけて糸を作ること」が本来の意味ですが、「歴史・人生・命などを繋げる」という意味も持ち合わせます。皆さん一人ひとりの小さな愛を撚り合わせ、大きな愛にしながら繋げていってほしいという願いで、「紡」という文字を入れています。

また、日本語で「愛」と訳されている古代ギリシャ語には、四種類の愛（エロス=男女間の純粋な愛、フィリア=友人間で成り立つ友情や友愛、ストルゲー=家族愛、アガペー=博愛、献身的な愛）があり、聖書で語られる「愛」の大半は、アガペー(agape)とフィリア(philia)ですが、とりわけ、学ぶことで理性的に身に付けることができるアガペーが最も価値のある教えと言われています。本校の教育理念である「Women for Others」達成のためにも、博愛・献身的な愛であるアガペーが求められます。

「紡愛（Weaving Love）」の二文字には、卒業後も、他者のために生きる女性として、人との関わりの中で、一人ひとりの愛を燃り合わせながら、愛を育む人になってほしいとの願いを込めました。

カトリック学校の大切な教育理念である「愛」をつけた卒業名です。これまで「愛」のついた卒業名は、7期「愛子会」、9期「知愛会」、13期「光愛会」、15期「友愛会」、20期「至愛会」、28期「信愛会」、51期「愛（かな）の会」、61期「慈愛の会」に続き、9期生日となります。これまで、最も多く卒業名で使われた漢字であり、本校での学びを象徴する一文字でもあります。

「Women for Others」や五つの校訓とともに、これまで培った「而今」「自律」「共感」「命・恕・感謝の心」を大切にしながら、これからも、「紡愛」の文字が示すように、一人ひとりが他者のために理性的な愛であるアガペーを示しながら、その愛をチームとして紡ぎ育ててください。

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

(コロサイ 3:12~14)

人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるろうか。罪人でも同じことをしている。返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあるろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

(ルカ 6:31~36)

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。…(中略)…それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

(I コリント 13:4~7、13)

敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

(マタイによる福音 5章44節)